

第2章

テレビメディアによる障害者スポーツ情報発信 環境調査

調査概要

(1)調査目的

パリ 2024 パラリンピック大会の開催に合わせ、障害者スポーツの各種メディア(テレビ・インターネットなど)での露出状況(量的、番組傾向、トピックスなど)を把握し、影響度や障害者スポーツの社会的認知度を図る。

(2)データ抽出内容

放送日時、テレビ局、番組名、放送時間、番組カテゴリー、番組内コーナーなどの項目でデータを抽出する。

(3)データ抽出条件

東京都内での地上波デジタル(メインのみ)の放送環境を有するテレビ局の東京エリア放送分のデータをもとに、検索対象ワードとして、①“パラリン”、②“障害” AND “スポーツ”、③“障がい” AND “スポーツ”の3条件を設定した。①について、“パラ”と設定した場合、パラリンピック関連以外のワードが大量に対象となってしまうために、本調査では、「パラリンピック」「パラリンピアン」のいずれかのワードが対象となるように、“パラリン”を検索対象ワードに設定した。なお、対象となったデータ件数は以下のとおりである。

図表 2-1 大会別対象データ件数

	①“パラリン”	②“障害”AND “スポーツ”	③“障がい”AND “スポーツ”
北京 2008 パラリンピック	1,024 件	59 件	1 件
ロンドン 2012 パラリンピック	1,739 件	25 件	1 件
リオデジャネイロ 2016 パラリンピック	4,302 件	62 件	18 件
東京 2020 パラリンピック	5,783 件	119 件	36 件
パリ 2024 パラリンピック	2,046 件	54 件	9 件

(4) データ抽出期間

図表 2-2 大会別のデータ抽出期間

	開会前(1 か月間)	開催中	開催後(1 か月間)
北京 2008 パラリンピック	2008/8/6～ 2008/9/5	2008/9/6～ 2008/9/17	2008/9/18～ 2008/10/17
ロンドン 2012 パラリンピック	2012/7/29～ 2012/8/28	2012/8/29～ 2012/9/9	2012/9/10～ 2012/10/9
リオデジャネイロ 2016 パラリンピック	2016/8/7～ 2016/9/6	2016/9/7～ 2016/9/18	2016/9/19～ 2016/10/18
東京 2020 パラリンピック	2021/7/24～ 2021/8/23	2021/8/24～ 2021/9/5	2021/9/6～ 2021/10/5
パリ 2024 パラリンピック	2024/7/28～ 2024/8/27	2024/8/28～ 2024/9/8	2024/9/9～ 2024/10/8

(5) データ提供者

株式会社エム・データ (M Data Co.Ltd.)

住所: 東京都千代田区内幸町 2-1-1 飯野ビルディング 9 階

TEL: 03-6826-7060

URL: <https://mdata.tv/>

(6) 集計・分析

株式会社サーベイリサーチセンター 調査事務局

住所: 東京都荒川区西日暮里 2-40-10

TEL: 03-3802-6775

URL: <https://www.surece.co.jp>

(7) 大会名の略称

本報告書では、夏季パラリンピック競技大会の名称は以下の表記とする。

- ・ 北京 2008 パラリンピック競技大会(以下、北京大会)
- ・ ロンドン 2012 パラリンピック競技大会(以下、ロンドン大会)
- ・ リオデジャネイロ 2016 パラリンピック競技大会(以下、リオ大会)
- ・ 東京 2020 パラリンピック競技大会(以下、東京大会)
- ・ パリ 2024 パラリンピック競技大会(以下、パリ大会)

要約

- ◆ 過去 5 大会の放送時間は、北京大会が 56 時間 45 分 18 秒、ロンドン大会が 78 時間 14 分 15 秒、リオ大会が 234 時間 36 分 59 秒、東京大会が 223 時間 27 分 7 秒、パリ大会が 77 時間 40 分 49 秒で、パリ大会は東京大会の約 3 分の 1 に減少し、ロンドン大会とほぼ同規模の放送時間になった。
- ◆ パリ大会の「開催前」「開催中」「開催後」の放送時間を見ると、「開催前」「開催中」はロンドン大会と同規模の放送時間に減少、「開催後」はロンドン大会を下回り、北京大会とほぼ同規模の放送時間に減少した。
- ◆ 過去 5 大会のテレビ局の合計放送時間は、「NHK 総合」(247 時間 50 分 43 秒)が最も多く、ついで、「NHK 教育」(108 時間 12 分 29 秒)、「TBS」(92 時間 9 分 8 秒)であった。大会別に 20 時間以上放送しているテレビ局は、北京大会、ロンドン大会では「NHK 総合」「NHK 教育」の 2 局、リオ大会では「NHK 総合」「日本テレビ」「TBS」「フジテレビ」「テレビ朝日」の 5 局、東京大会では「NHK 総合」「NHK 教育」「日本テレビ」「TBS」「フジテレビ」「テレビ朝日」の 6 局、パリ大会では「NHK 総合」の 1 局であった。
- ◆ 過去 5 大会の番組カテゴリー別の合計放送時間は、「ニュース/報道」(206 時間 44 分 49 秒)が最も多く、ついで、「情報/ワイドショー」(202 時間 4 分 8 秒)、「スポーツ」(177 時間 53 分 26 秒)であった。「ニュース/報道」「情報/ワイドショー」では、リオ大会で急増した放送時間が東京大会で微減し、パリ大会で大幅に減少した。「スポーツ」の放送時間は、東京大会で急増したがパリ大会で半分以下に減少した。
- ◆ テレビ局の番組カテゴリー別に 10 時間以上放送したのは、北京大会では NHK 教育「スポーツ」、ロンドン大会では NHK 総合と NHK 教育「スポーツ」、リオ大会では、NHK 総合「ニュース/報道」「スポーツ」、日本テレビ「情報/ワイドショー」「ニュース/報道」、TBS「情報/ワイドショー」、フジテレビ「情報/ワイドショー」「ニュース/報道」、テレビ朝日「情報/ワイドショー」「ニュース/報道」、東京大会では、NHK 総合「情報/ワイドショー」「ニュース/報道」「スポーツ」、NHK 教育「スポーツ」、日本テレビ「情報/ワイドショー」「ニュース/報道」、TBS「情報/ワイドショー」、フジテレビ「情報/ワイドショー」、テレビ朝日「情報/ワイドショー」、パリ大会では、NHK 総合「ニュース/報道」「スポーツ」、NHK 教育「スポーツ」であった。パリ大会は、リオ大会と東京大会から大幅に減少したが、「ニュース/報道」についてはいずれの局もロンドン大会より増えているのが特徴的であった。
- ◆ 番組内に設けられたコーナー別の放送時間は、過去 5 大会ともに「スポーツ」が最も多く、東京大会は北京大会の約 4 倍に増えたが、パリ大会では東京大会の約 3 分の 1 に減少し、ロンドン大会と同規模の放送時間になった。
- ◆ パリ大会に出場した日本代表選手 175 人のうち、「開催前」「開催中」「開催後」の合計の放送時間の多い上位 10 位までをメダリストが占めた。

調査報告

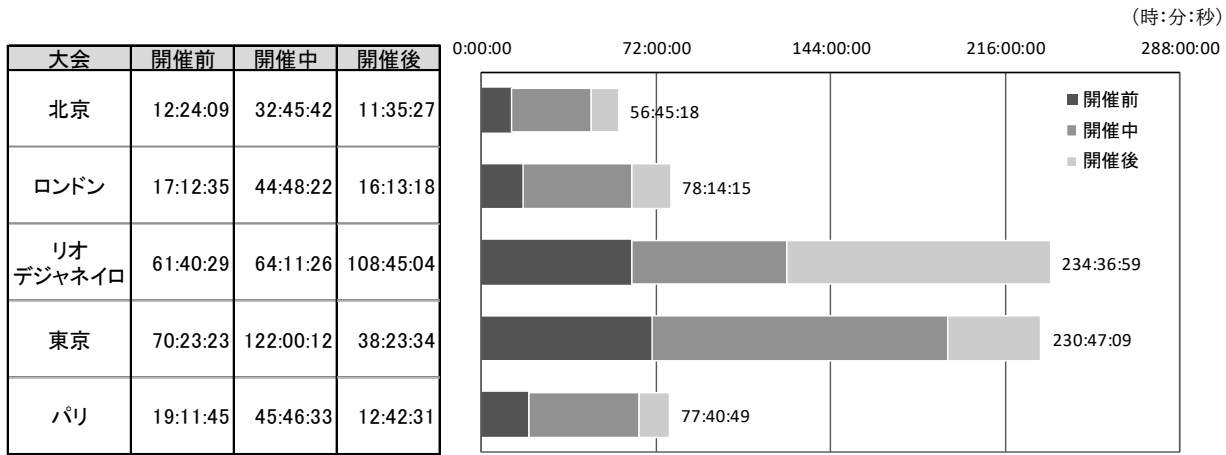
1. メディア放送時間(単純集計)

北京大会、ロンドン大会、リオ大会、東京大会、パリ大会の地上波テレビ放送をパラリンピックの開催前1か月、開催中、開催後1か月で見ると、5大会の合計放送時間は、678時間4分30秒であった。

1.1 過去5大会の放送時間の変遷

過去5大会の大会別放送時間は、北京大会が56時間45分18秒、ロンドン大会が78時間14分15秒、リオ大会が234時間36分59秒、東京大会が230時間47分9秒、パリ大会が77時間40分49秒であった(図表2-3)。リオ大会は、北京大会の約4倍の放送時間となり、東京大会も同規模の放送時間であったが、パリ大会は東京大会の約3分の1に減少し、ロンドン大会と同規模の放送時間となった。

図表 2-3 過去5大会の放送時間



1.2 開催前・開催中・開催後の放送時間

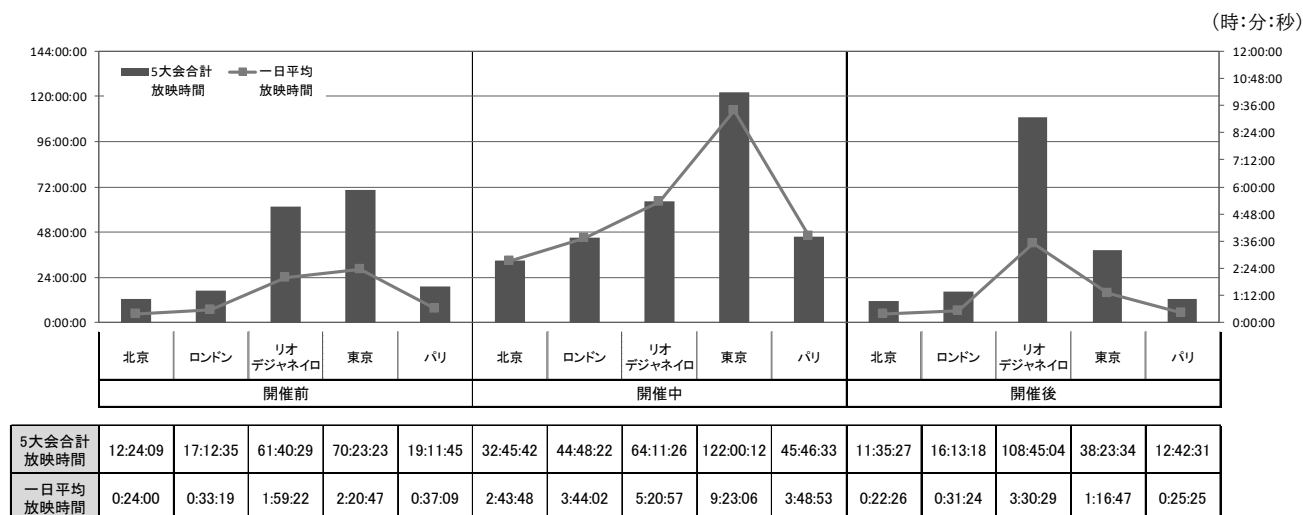
パラリンピック大会の「開催前」「開催中」「開催後」に分けて、合計放送時間と一日平均放送時間について見た(図表2-4)。

「開催前」では、北京大会からロンドン大会にかけて微増であったが、ロンドン大会からリオ大会にかけては17時間12分35秒から61時間40分29秒と約4倍増となった。東京大会はリオ大会からさらに増加して70時間23分23秒であったが、パリ大会では19時間11分45秒と減少し、ロンドン大会と同規模の放送時間となった。

「開催中」では、北京大会、ロンドン大会、リオ大会と徐々に放送時間は増加し、東京大会では、122時間12秒とリオ大会から倍増したが、パリ大会では45時間46分33秒と減少し、「開催前」同様、ロンドン大会と同規模の放送時間となった。

「開催後」では、北京大会からロンドン大会にかけて微増であったが、リオ大会では108時間45分4秒とロンドン大会から大幅増であったが、東京大会では38時間23分34秒と約3分の1に減少し、パリ大会では12時間42分31秒と減少し、ロンドン大会を下回る放送時間であった。

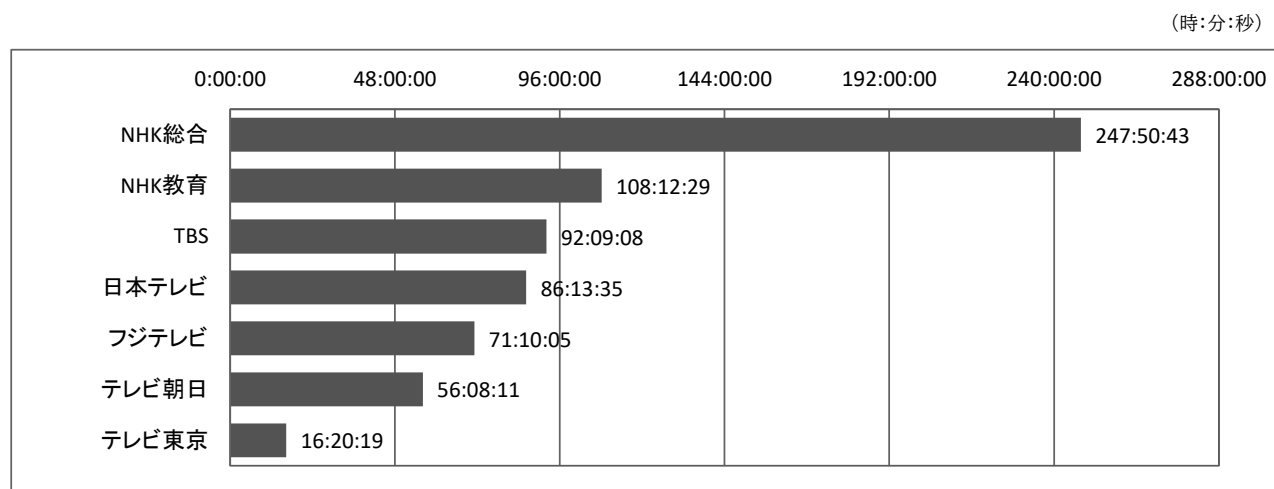
図表 2-4 大会開催前、開催中、開催後の放送時間



1.3 テレビ局別の放送時間

過去5大会のテレビ局別の合計放送時間は、「NHK 総合」が247時間50分43秒と最も多く、ついで、「NHK 教育」の108時間12分29秒、「TBS」の92時間9分8秒であった(図表 2-5)。

図表 2-5 テレビ局別の放送時間(過去5大会合計)

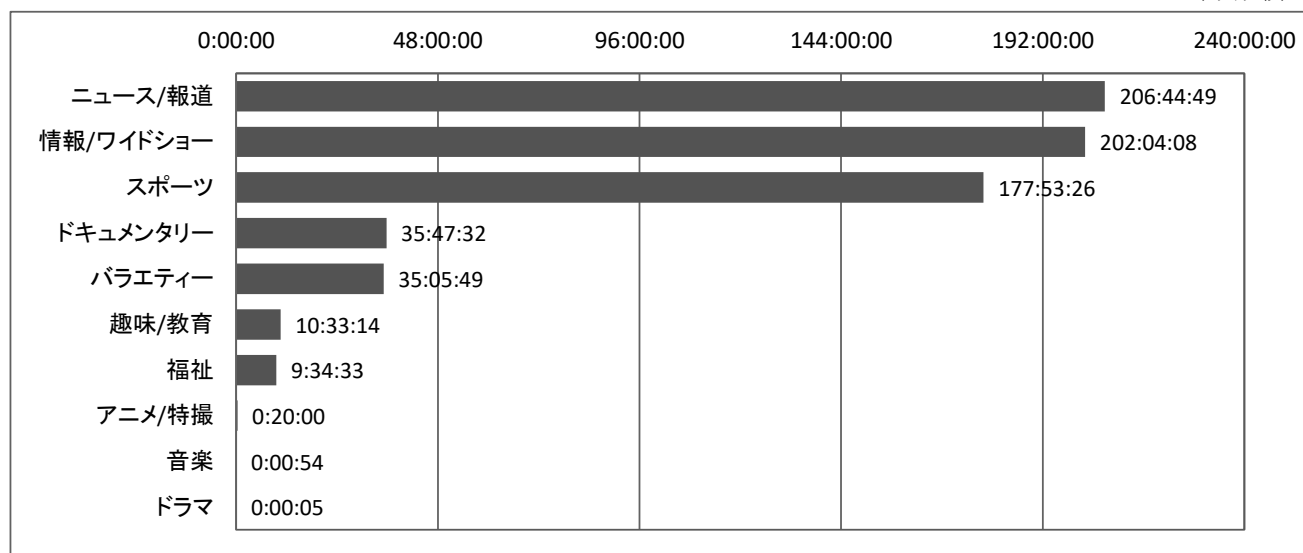


1.4 番組カテゴリー別の放送時間

過去5大会の番組カテゴリー別の合計放送時間は、「ニュース/報道」が206時間44分49秒と最も多く、ついで、「情報/ワイドショー」(202時間4分8秒)、「スポーツ」(177時間53分26秒)であった(図表2-6)。

図表 2-6 番組カテゴリー別の放送時間(過去5大会合計)

(時:分:秒)



注)番組カテゴリーは番組自体の分類を指し、番組内コーナーは番組内に設けられたコーナーのことを指す。例えば、ニュース番組内のスポーツコーナーでパラリンピアンについての話題を取り上げた場合、番組カテゴリーは「ニュース/報道」、番組内コーナーは「スポーツ」となる。

参考までに、番組カテゴリー別に主な番組名をまとめると、図表2-7のとおりである。

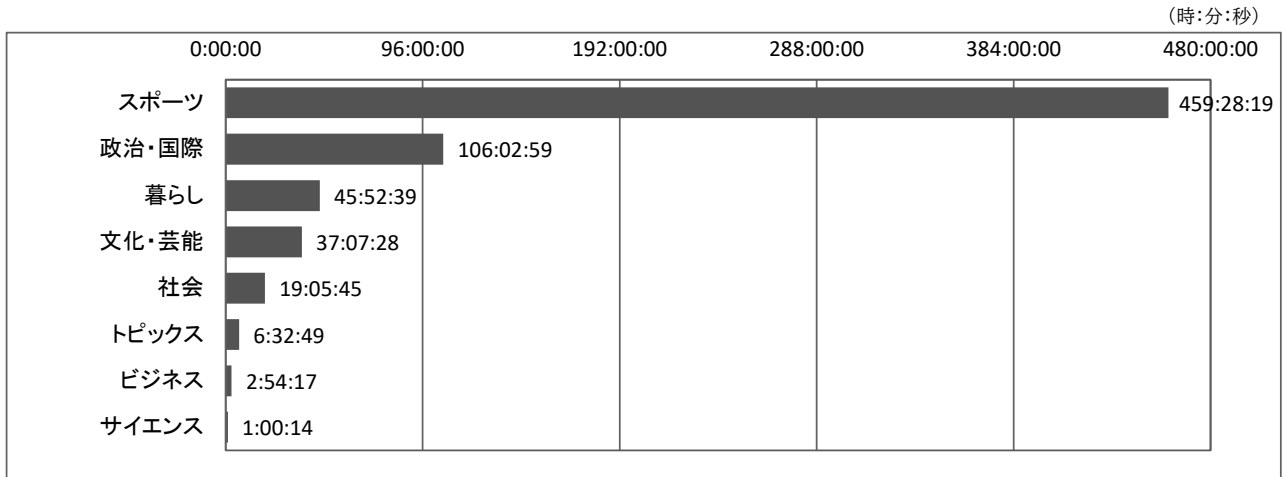
図表 2-7 【参考】番組カテゴリー別に見る主なテレビ番組

番組カテゴリー	『番組名』(テレビ局名)
ニュース/報道	『NHKニュースおはよう日本(NHK総合)』『ニュースウオッチ9(NHK総合)』『newsevery. (日本テレビ)』『NEWS ZERO(日本テレビ)』『Nスタ(TBS)』『news23(TBS)』『サンデーモーニング(TBS)』『報道ステーション(テレビ朝日)』『ANNスーパーJチャンネル(テレビ朝日)』『Live News イット! (フジテレビ)』『FNN Live News days(フジテレビ)』など
情報/ワイドショー	『#NHK(NHK総合)』『どーも、NHK(NHK総合)』『あさイチ(NHK総合)』『ZIP! (日本テレビ)』『DayDay. (日本テレビ)』『シューイチ(日本テレビ)』『THE TIME, (TBS)』『ひるおび(TBS)』『大下容子ワイド! スクラブル(テレビ朝日)』『グッド! モーニング(テレビ朝日)』『めざましテレビ(フジテレビ)』『めざまし8(フジテレビ)』『めざましどようび(フジテレビ)』など
スポーツ	『サンデースポーツ(NHK総合)』『パリパラリンピック2024(NHK総合)』『Going! Sports & News(日本テレビ)』『S☆1(TBS)』『パリオリンピック陸上女子5000m決勝ほか生中継(TBS)』『Get Sports(テレビ朝日)』『すぽると! (フジテレビ)』など

1.5 番組内コーナー別に見る放送時間

番組内に設けられたコーナー別に過去 5 大会の合計放送時間を見ると、最も取り上げられたコーナーは「スポーツ」(459 時間 28 分 19 秒)で、ついで、「政治・国際」(106 時間 2 分 59 秒)、「暮らし」(45 時間 52 分 39 秒)であった(図表 2-8)。

図表 2-8 番組内コーナー別に見る放送時間(過去5大会合計)



注)番組カテゴリーは番組自体の分類を指し、番組内コーナーは番組内に設けられたコーナーのことを指す。例えば、ニュース番組内のスポーツコーナーでパラリンピアンについての話題を取り上げた場合、番組カテゴリーは「ニュース／報道」、番組内コーナーは「スポーツ」となる。

2. メディア放送時間(クロス集計)

2.1 テレビ局別に見る大会別放送時間

テレビ局別に5大会の放送時間を見ると、「NHK 総合」「日本テレビ」「TBS」「フジテレビ」「テレビ朝日」「テレビ東京」は、リオ大会、東京大会において他の大会よりも放送時間を増やしていた(図表 2-9)。

「NHK 総合」は、リオ大会、東京大会で放送時間が80時間を超えた。パリ大会では31時間51分40秒とリオ大会からは放送時間を減らしたものの、ロンドン大会(23時間39分39秒)と比べると放送時間は多かった。

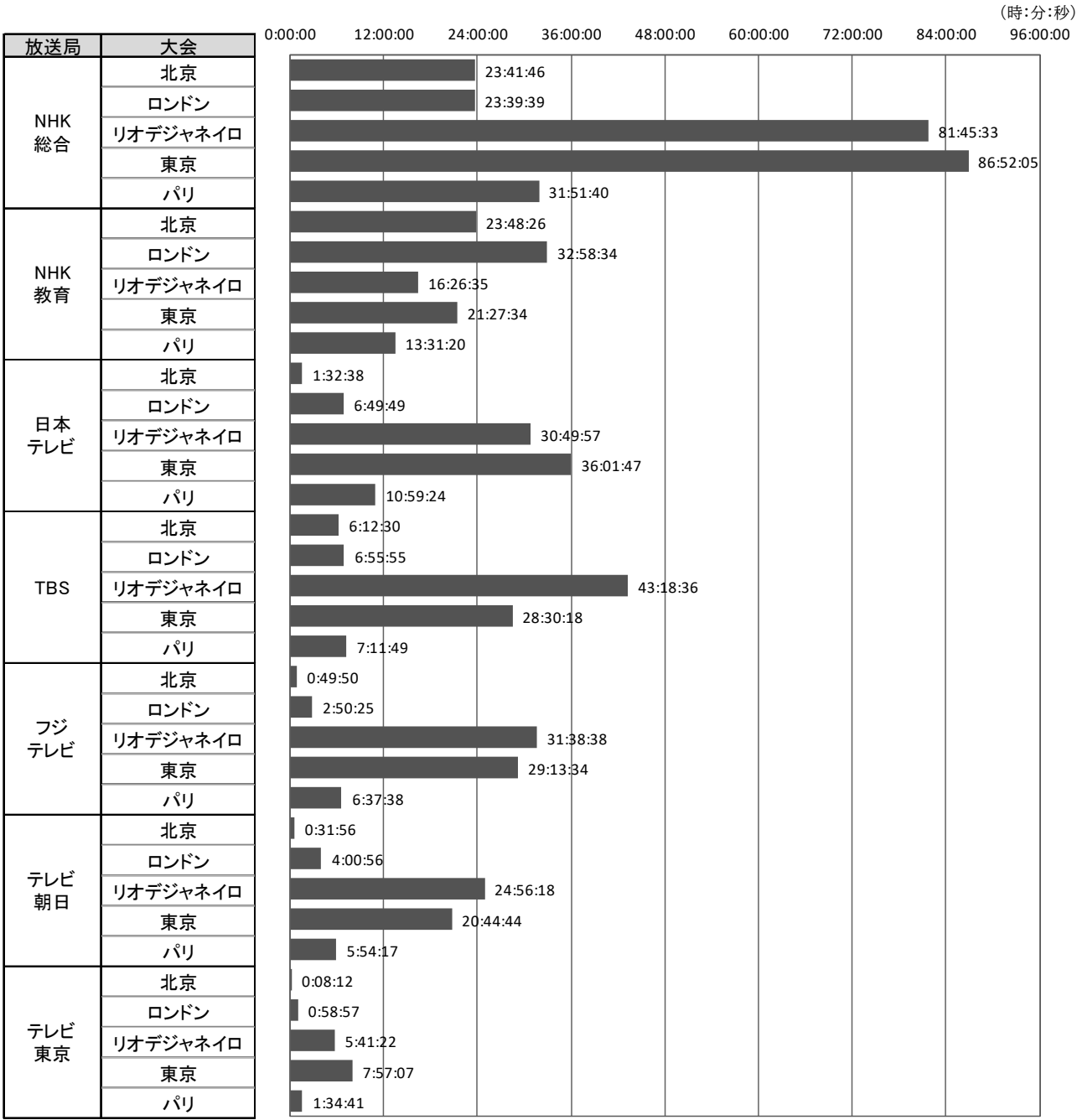
「NHK教育」は、ロンドン大会が32時間58分34秒と最も多く、続くリオ大会(16時間26分35秒)では半減し、パリ大会では13時間31分20秒とさらに放送時間を減らした。

「日本テレビ」「テレビ東京」は、リオ大会で急増した放送時間を東京大会ではさらに増やしたが、「TBS」「フジテレビ」「テレビ朝日」はリオ大会で急増した放送時間を、東京大会では減少させる結果となった。

ロンドン大会とパリ大会の放送時間を比較すると、「NHK 教育」以外のテレビ局ではパリ大会の放送時間が上回った。

20時間以上放送したテレビ局を大会別に見ると、北京大会、ロンドン大会では「NHK 総合」「NHK 教育」の2局であった(図表 2-10)。リオ大会では5局(「NHK 総合」「日本テレビ」「TBS」「フジテレビ」「テレビ朝日」)、東京大会では6局(「NHK 総合」「NHK 教育」「日本テレビ」「TBS」「フジテレビ」「テレビ朝日」)と増加したが、パリ大会では「NHK総合」の1局のみとなった。

図表 2-9 テレビ局別に見る大会別放送時間



図表 2-10 20時間以上放送したテレビ局一覧

大会名	実施年	放送局数	放送局名
北京大会	2008年	2局	NHK総合、NHK教育
ロンドン大会	2012年	2局	NHK総合、NHK教育
リオ大会	2016年	5局	NHK総合、日本テレビ、TBS、フジテレビ、テレビ朝日
東京大会	2021年	6局	NHK総合、NHK教育、日本テレビ、TBS、フジテレビ、テレビ朝日
パリ大会	2024年	1局	NHK総合

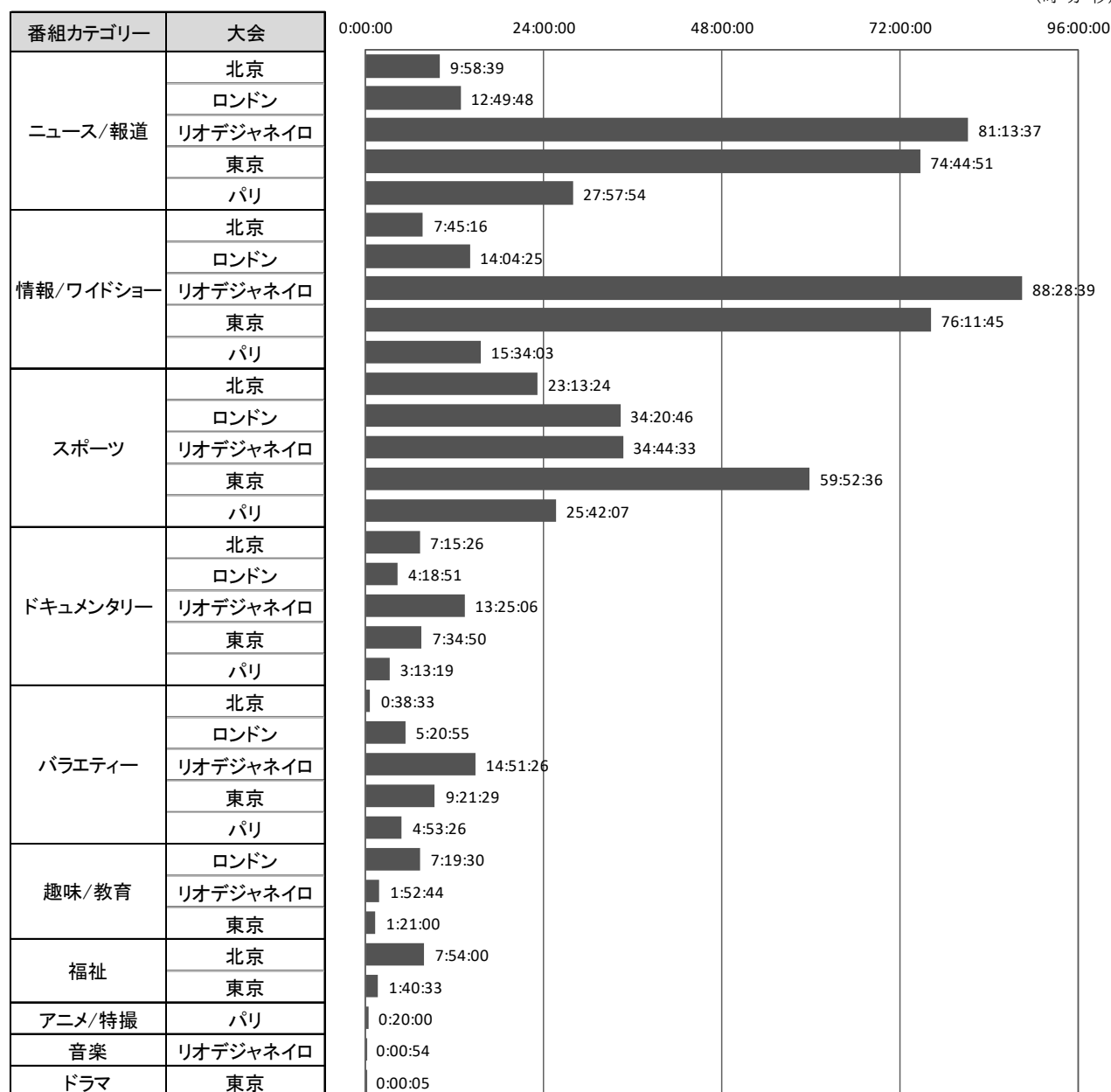
2.2 番組カテゴリー別に見る5大会の放送時間

番組カテゴリー別に5大会の放送時間を見ると、「ニュース/報道」「情報/ワイドショー」では、リオ大会で急増した放送時間が東京大会で微減し、パリ大会で大幅に減少した(図表2-11)。「スポーツ」の放送時間は、東京大会で急増したがパリ大会で半分以下に減少した。

テレビ局別に5大会の放送時間を見ると、各テレビ局で番組カテゴリーは様々であった(図表2-12)。10時間以上の放送時間であったテレビ局の番組カテゴリーは、北京大会ではNHK教育「スポーツ」、ロンドン大会ではNHK総合とNHK教育「スポーツ」で、リオ大会では、NHK総合「ニュース/報道」「スポーツ」、日本テレビ「情報/ワイドショー」「ニュース/報道」、TBS「情報/ワイドショー」、フジテレビ「情報/ワイドショー」「ニュース/報道」、テレビ朝日「情報/ワイドショー」「ニュース/報道」、東京大会では、NHK総合「情報/ワイドショー」「ニュース/報道」「スポーツ」、NHK教育「スポーツ」、日本テレビ「情報/ワイドショー」「ニュース/報道」、TBS「情報/ワイドショー」、フジテレビ「情報/ワイドショー」、テレビ朝日「情報/ワイドショー」であったが、パリ大会では、NHK総合「ニュース/報道」「スポーツ」、NHK教育「スポーツ」であった。パリ大会ではリオ大会と東京大会から大幅に減少したが、「ニュース/報道」についてはいずれの局もロンドン大会より増えているのが特徴的であった。

図表 2-11 番組カテゴリー別に見る大会別放送時間

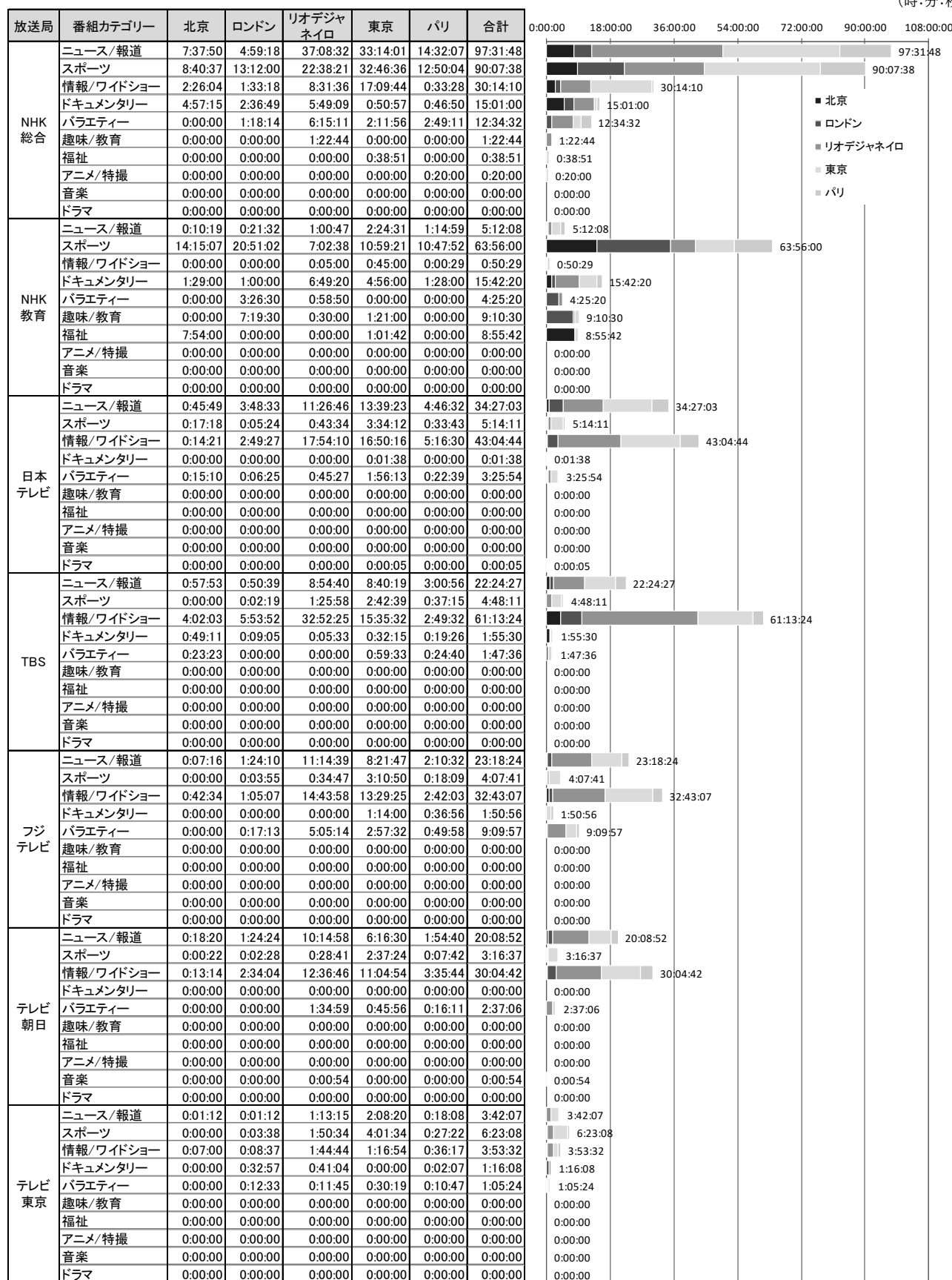
(時:分:秒)



注) 番組カテゴリーは番組自体の分類を指し、番組内コーナーは番組内に設けられたコーナーのことを指す。例えば、ニュース番組内のスポーツコーナーでパラリンピアンについての話題を取り上げた場合、番組カテゴリーは「ニュース/報道」、番組内コーナーは「スポーツ」となる。

図表 2-12 テレビ局の番組カテゴリー別に見る大会別の放送時間

(時:分:秒)



注)番組カテゴリーは番組自体の分類を指し、番組内コーナーは番組内に設けられたコーナーのことを指す。例えば、ニュース番組内のスポーツコーナーでパラリンピアンについての話題を取り上げた場合、番組カテゴリーは「ニュース/報道」、番組内コーナーは「スポーツ」となる。

番組カテゴリー別の 5 大会の放送時間を「開催前」「開催中」「開催後」に分けて見た(図表 2-13)。

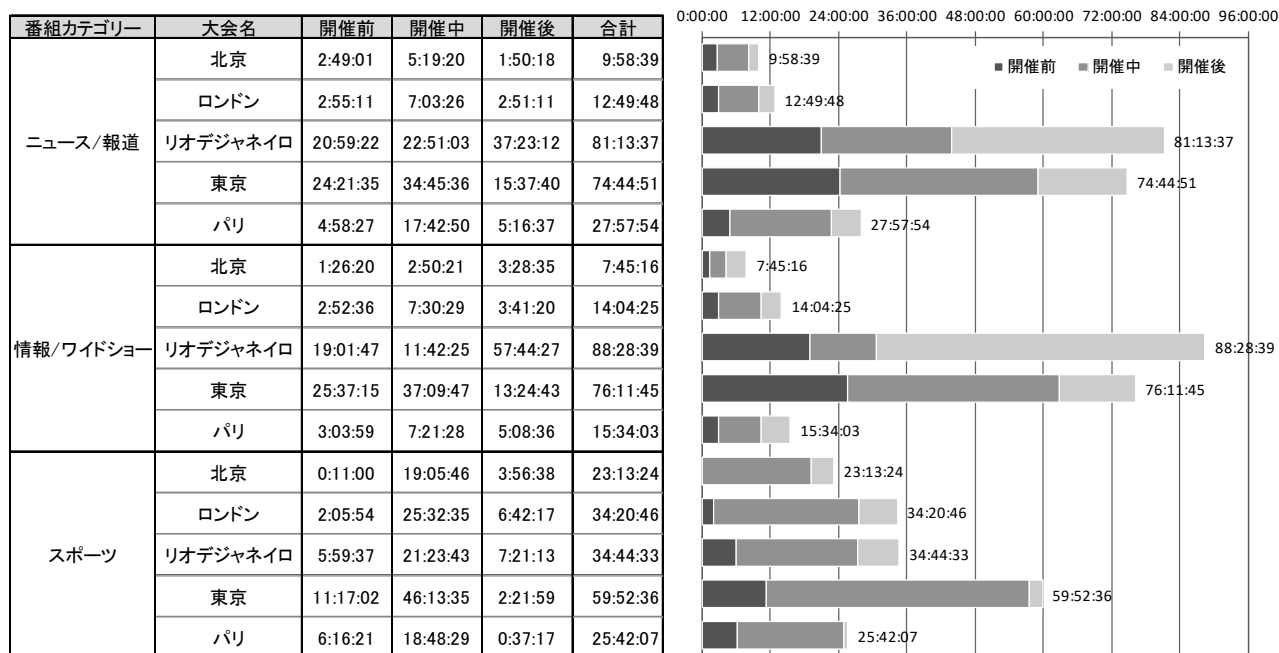
「ニュース/報道」では、「開催前」「開催中」「開催後」において、リオ大会、東京大会の放送時間が増えた。特にリオ大会の「開催後」は放送時間が急増した。パリ大会は、「開催前」「開催中」「開催後」のいずれにおいても東京大会より減少したが、ロンドン大会と比較すると、いずれにおいてもパリ大会が上回った。

「情報/ワイドショー」では、「ニュース/報道」同様に、「開催前」「開催中」「開催後」において、リオ大会、東京大会の放送時間が増えた。特に、リオ大会の「開催後」、東京大会の「開催中」で放送時間が急増した。パリ大会は、「開催前」「開催中」「開催後」のいずれにおいても減少した。ロンドン大会と比較すると、同規模の放送時間だった。

「スポーツ」は、5 大会ともに、「開催中」が最も放送時間が多かった。特に、東京大会の「開催中」は急増した。パリ大会は、「開催前」「開催中」「開催後」のいずれにおいても東京大会から減少、ロンドン大会との比較では、「開催前」で増加、「開催中」「開催後」で減少した。

図表 2-13 テレビ局の番組カテゴリー別(上位 3 カテゴリー)に見る大会別放送時間

(時:分:秒)

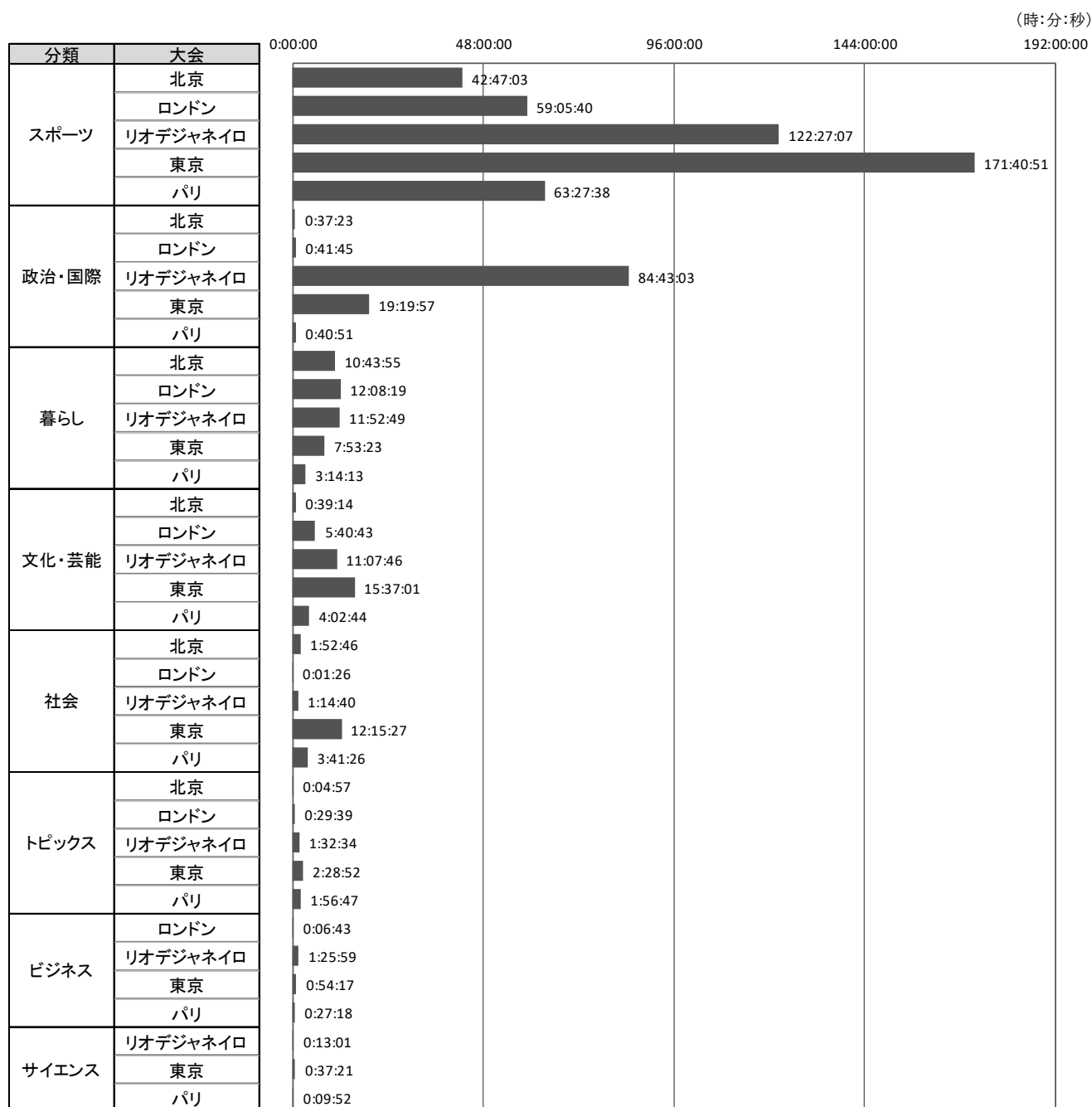


注)番組カテゴリーは番組自体の分類を指し、番組内コーナーは番組内に設けられたコーナーのことを指す。例えば、ニュース番組内のスポーツコーナーでパラリンピアンについての話題を取り上げた場合、番組カテゴリーは「ニュース/報道」、番組内コーナーは「スポーツ」となる。

2.3 番組内コーナー別に見る大会別放送時間

番組内に設けられたコーナー別に大会の放送時間を見ると、過去 5 大会ともに「スポーツ」コーナーで取り上げられる放送時間が最も多かった(図表 2-14)。東京大会は、北京大会(42 時間 47 分 3 秒)から約 4 倍増の 171 時間 40 分 51 秒であった。パリ大会では、東京大会の約 3 分の 1(63 時間 27 分 38 秒)に減少し、ロンドン大会とほぼ同規模の放送時間であった。リオ大会で急増した「政治・国際」コーナーは、東京大会で約 4 分の 1 に減少し、パリ大会ではロンドン大会とほぼ同規模に戻った。東京大会で 12 時間 15 分 27 秒放送された「社会」コーナーは、パリ大会で 3 時間 41 分 26 秒と減少したが、リオ大会の放送時間より多い。

図表 2-14 番組内コーナー別に見る大会別放送時間



注)番組カテゴリーは、番組自体の分類を指し、番組内コーナーは番組内に設けられたコーナーのことを指す。例えば、ニュース番組内のスポーツコーナーでパラリンピアンについての話題を取り上げた場合、番組カテゴリーは「ニュース／報道」、番組内コーナーは「スポーツ」となる。

3. パリ大会日本代表選手別の放送時間

パリ大会に出場した日本代表選手 175 人のうち、「開催前」「開催中」「開催後」の合計の放送時間の多い上位 30 人は以下のとおりであった(図表 2-15)。上位 10 位までをメダリストが占めた。

図表 2-15 パリ大会の放送時間が多い選手上位 30 人

NO.	氏名	ふりがな	競技	[h]:mm:ss 放映時間 合計
1	小田凱人	おだ ときと	車いすテニス	10:54:08
2	橋本勝也	はしもと かつや	車いすラグビー	4:45:32
3	池透暢	いけ ゆきのぶ	車いすラグビー	4:35:38
4	木村敬一	きむら けいいち	水泳	4:18:43
5	池崎大輔	いけざき だいすけ	車いすラグビー	3:31:27
6	鈴木孝幸	すずき たかゆき	水泳	3:21:01
7	上地結衣	かみじ ゆい	車いすテニス	3:14:36
8	里見紗李奈	さとみ さりな	バドミントン	2:28:13
9	倉橋香衣	くらはし かえ	車いすラグビー	2:14:40
10	宮食行次	みやじき こうじ	ゴールボール	1:55:35
11	金子和也	かねこ かずや	ゴールボール	1:49:11
12	中西麻耶	なかにし まや	陸上競技	1:40:29
13	佐野優人	さの ゆうと	ゴールボール	1:37:34
14	杉村英孝	すぎむら ひでたか	ボッチャ	1:31:45
15	遠藤裕美	えんどう ひろみ	ボッチャ	1:30:26
16	田中愛美	たなか まなみ	車いすテニス	1:29:06
17	伊藤智也	いとう ともや	陸上競技	1:16:34
18	梶原大暉	かじわら だいき	バドミントン	1:15:06
19	和田なつき	わだ なつき	卓球	1:13:43
20	田口侑治	たぐち ゆうじ	ゴールボール	1:09:21
21	佐藤友祈	さとう ともき	陸上競技	1:04:13
22	杉浦佳子	すぎうら けいこ	自転車競技	1:01:51
23	廣瀬順子	ひろせ じゅんこ	柔道	0:58:58
24	齋藤由希子	さいとう ゆきこ	陸上競技	0:57:28
25	石山大輝	いしやま だいき	陸上競技	0:55:29
26	木下あいら	きのした あいら	水泳	0:55:15
27	辻内彩野	つじうち あやの	水泳	0:53:49
28	西田杏	にしだ あん	水泳	0:52:11
29	富田宇宙	とみた うちゅう	水泳	0:50:33
30	後藤将起	ごとう まさき	ブラインドフットボール	0:50:32

「開催前」「開催中」「開催後」ごとの放送時間の多い上位 10 人は以下のとおりであった(図表 2-16)。
「開催中」の上位 10 名はすべてメダリストであった。

図表 2-16 パリ大会の放送時間が多い選手上位 10 人(開催前・開催中・開催後)

NO.	開催前			開催中			開催後		
	氏名	実施競技	放映時間	氏名	実施競技	放映時間	氏名	実施競技	放映時間
1	小田凱人	車いす テニス	2:23:02	小田凱人	車いす テニス	4:13:04	小田凱人	車いす テニス	4:18:02
2	中西麻耶	陸上競技	1:21:30	橋本勝也	車いす ラグビー	2:51:30	池透暢	車いす ラグビー	1:37:22
3	橋本勝也	車いす ラグビー	1:20:51	鈴木孝幸	水泳	2:26:45	上地結衣	車いす テニス	1:26:15
4	木村敬一	水泳	1:19:46	池透暢	車いす ラグビー	2:10:45	木村敬一	水泳	0:56:47
5	池崎大輔	車いす ラグビー	1:14:41	木村敬一	水泳	2:02:10	鈴木孝幸	水泳	0:53:05
6	宮食行次	ゴール ボール	1:11:20	池崎大輔	車いす ラグビー	1:46:12	和田なつき	卓球	0:49:21
7	田口侑治	ゴール ボール	1:01:35	上地結衣	車いす テニス	1:41:10	廣瀬順子	柔道	0:48:29
8	池透暢	車いす ラグビー	0:47:31	遠藤裕美	ボッチャ	1:27:37	大谷桃子	車いす テニス	0:46:50
9	川村怜	ブラインド フットボール	0:37:44	倉橋香衣	車いす ラグビー	1:24:50	里見紗李奈	バドミントン	0:39:37
10	一戸彩音	ボッチャ	0:37:44	杉村英孝	ボッチャ	1:16:45	金子和也	ゴール ボール	0:35:40

4. まとめと考察

本調査は、夏季パラリンピックの地上波テレビ放送時間を集計するため、2016 年度、2021 年度に続き、実施した 3 回目の調査となる。2016 年度調査では北京大会、ロンドン大会、リオ大会の放送時間、2021 年度調査では東京大会の放送時間を集計、2024 年度調査となる今回はパリ大会の放送時間を追加し、集計・分析した。東京大会の開催が決定した 2013 年以降、パラリンピックや障害者スポーツに関するテレビ番組は増え、関連する放送時間も増加の一途を辿った。いずれも東京大会に向けた国内の機運醸成が背景にあったことは想像に難くない。パリ大会は、東京大会終了後に初めて行われた夏季パラリンピックであった。国内の機運醸成という目的がない中で迎えた大会を、テレビはどう放送したのかを調査結果から見ていく。

大会別の放送時間を見ると、リオ大会は北京大会から約 4 倍、ロンドン大会から約 3 倍増えたが、リオ大会から東京大会で放送時間に大きな増加は見られなかった。一方、パリ大会の放送時間は東京大会の約 3 分の 1 となり、ロンドン大会とほぼ同規模の放送時間に減少した。放映時間を「開催前」「開催中」「開催後」に分けてみると、傾向がより顕著に見えてくる。「開催前」では、ロンドン大会とパリ大会で放送時間はほぼ同規模となっており、パラリンピック開催前のメディアの盛り上がりは 2012 年と同様といえる。「開催中」においては、日本とフランスの時差が 8 時間あり、リアルタイムでの視聴が難しくなったことも影響し、東京大会の半分以下の放送時間になったが、この放送時間はロンドン大会とほぼ同規模であった。「開催後」においては、リオ大会をピークに、すでに東京大会でもリオ大会の 3 分の 1 の放送時間となり、メディアでの取り扱いが減少していたが、パリ大会ではさらに減少し、ロンドン大会より少ない放送時間となった。これらの放送時間減少の結果から、ロンドン大会と同規模のテレビ放送時間に戻ったことが示唆された。

テレビ番組のカテゴリーで見ると、リオ大会で急増した「情報/ワイドショー」「ニュース/報道」は、東京大会でいずれも減少したが、それでも 70 時間以上の放送時間があつた。パリ大会ではいずれも減少したが、「情報/ワイドショー」が 15 時間 34 分 3 秒とロンドン大会(14 時間 4 分 25 秒)とほぼ同規模の放送時間となった一方、「ニュース/報道」は減少したとはいえ、パリ大会(27 時間 57 分 54 秒)は、ロンドン大会(12 時間 49 分 48 秒)の 2 倍以上の放送時間であった。

テレビ番組内のコーナー別で見ると、5 大会すべてにおいて「スポーツ」が最も多かった。2016 年度調査、2021 年度調査同様、ニュース報道、ワイドショーなどの番組内スポーツコーナーにおいて、パラリンピックに関する内容を取り上げていたと推察する。北京大会、ロンドン大会ではほとんど取り上げられなかった「政治・国際」コーナーは、リオ大会ではロシアのドーピング問題で 80 時間超の放送時間であったが、東京大会ではコロナ禍での大会関係者の来日、選手村での滞在者の行動などが理由で約 20 時間を割いたと思われる。

テレビ局別に見ると、5 大会の合計放送時間は「NHK 総合」が最も多く、ついで「NHK 教育」「TBS」となっている。北京大会、ロンドン大会は、民放テレビ局の放送時間は少なく、「NHK 総合」「NHK 教育」が放送時間の大部分を占めていたが、リオ大会では民放テレビ局が放送時間を総じて増やした。東京大会を念頭に置き、各局がパラリンピックの放送に本腰を入れたと考えられる。特に NHK は、東京大会の独占放映権を獲得し、リオ大会以降「NHK 教育」から「NHK 総合」に放送時間の割合を大きくシフトさせた。実際に、リオ大会では、東京大会での放送体制を想定し、「NHK 総合」では現地のナイトセッションで行われる注目競技の生中継、夜の時間帯に「パラリンピックタイム」の番組を放送した。「NHK 教育」でも夜の時間帯に競技のダイジェスト中継を行い、さらに、その番組では、ユニバーサル放送として、聴覚障

害者向けのワイプ画面での手話通訳とリアルタイム字幕放送、視覚障害者向けの競技場面やルール解説などを交えたコンテンツを提供した。こうした変化は、NHK がパラリンピックや障害者スポーツを、これまでの福祉的、教育的観点の放送から、スポーツとして放送する方針に変更したことが一つの理由だと推察できる。

パラリンピックの放映権は、北京大会、ロンドン大会、リオ大会はスカパーJSAT が獲得し、専門チャンネルや BS スカパー!などで競技中継を放送した。東京大会とパリ大会は、NHK が日本国内におけるすべてのメディア放映権を独占で獲得した。長らく、NHK、スカパー!以外の放送局がパラリンピックを放送することはなかったが、東京大会では JCOM とグリーンチャンネルに加え、民放各局も NHK からサブライセンスを獲得した上で、各局で番組を制作して放送した。パリ大会でもグリーンチャンネルと JCOM が NHK からサブライセンスを獲得した上で一部の競技を中継した。本調査のメディア放送では対象外だが、国際パラリンピック委員会(IPC)は、独自の YouTube チャンネルで全競技のライブ中継を初めて行った。マルチ視聴は、アメリカのスポーツ観戦ではすでに導入されており、パリ大会でも新たな方法でのパラリンピック中継に取り組み始めた。国内では、JCOM(株)がオリジナルチャンネル「J:COM テレビ」において、日本代表のメダル獲得が期待される 9 競技を実況、解説付きで中継した。さらに、パラリンピック期間中の 20 時から毎日 2 時間、「J:COM テレビ」でパリ大会の特別番組を放送した。また、JCOM が提供する地域情報アプリ「ど・ろーかる」では、20 時からの生配信に加えて、大会期間中のアーカイブ配信も行った。スマートフォンやタブレットなど様々な媒体においての視聴が可能となり、これまでのテレビ放送中心の観戦から、変革が始まった大会となった。

パリ大会に出場した選手の放送時間を見ると、1 位小田凱人(車いすテニス)、2 位橋本勝也(車いすラグビー)、3 位池透暢(車いすラグビー)、4 位木村敬一(水泳)、5 位池崎大輔(車いすラグビー)と、メダリストが上位 11 位までを占めた。「開催後」の放送時間を見ると、上位 10 人中 8 人が金メダリストであった。

(小淵和也)